

「猛獣を飼いならす」

富山県 南砺市立井口中学校 2年 ^{うちざわ}内澤 ^{あゆむ}歩夢

土砂災害は猛獣に似ています。一瞬に襲いかかるところ、そして、全ての物を奪い去っていくところ。そう思うのは、9年前に父が土砂災害に遭ったからです。

その日はとてもすごい雨の日でした。父は、出勤途中でした。道に大量の土砂がたまっていて、引き返そうとしたその時です。道の上の方に留まっていた土砂が、雨水で流れてきました。父はその土石流に巻き込まれてしまい、車はころころ転がって落ちてしまいました。車は運よく橋の手前で止まりました。幸いにも、そこにガードレールがあったからです。そのガードレールがなければ、ずっと下まで流されていったと思います。現場のフェンスは今もへこんでいて、そのすぐうしろは崖になっています。父は、この事故でひどい打撲を負いました。しかし、命があってよかったです。もし、父の車がそのまま落ちていたらどうなっていたか考えただけでも恐ろしいです。

この豪雨による被害は、幸い軽症者2名と少なかったものの、河川・砂防を含む公共土木施設の被害額は50億円以上で、住宅被害と非住宅被害合わせて470世帯が被害を受けたと新聞が伝えています。また、僕の住んでいる近くの地区の川が氾濫しており、近くの町も沈みかけました。

僕はこの時、保育園児だったので、母から詳しいことを聞けませんでした。ですから、母から「ちょっと怪我をただけだよ」と言われていて、そんなに気にしていませんでした。しかし、今、中学生となり土砂災害というものを知るにつれ、父の命がよく助かったなと思いました。凶暴な獣の牙から、ようやく逃れることができたのだなあという感じです。

土砂災害の主な原因は、大きな気候の変動です。暴風雨とか長雨とか台風といった気象変動が原因です。今年、連続した台風が東北や北海道を襲い、極めて大きな被害を与えました。現在の科学では発生の予測は不可能です。しかし、土砂災害に立ち向かう方法は、いくつかあるように思えるのです。

まずは、どこが土砂災害警戒区域・危険箇所かを知ることです。各自治体は過去の災害の積み重ねから、どのあたりが危ないかをよく知っています。ただ、そのことを私たち自身がはっきり知っているかという点、やや怪しい気がします。私たちは火災や地震の避難訓練は行いますが、土砂災害の避難訓練を行う経験は少ないからです。また、警戒情報が出された後の行動も確かなものではありません。警戒情報が出されたときに、実際に避難行動を行うことが重要ではないでしょうか。

大雨の際や土砂災害警戒情報が発表された際には、早めに近くの避難所などの安全な場所に避難することを心がけ、夜間に大雨が予想される際には、暗くなる前に避難をするなど、先手をとっての積極的な避難行動がより安心・安全の確率を高くしてくれます。そのことを踏まえて、もしもの時に備えるべきだと感じました。

また、森林の減少に歯止めをかけることも重要です。木の根は土をつかんで幹を支えています。しかし、土をつかんでいる木がなくなることによって、弱い雨でも簡単に土砂崩れを起こしてしまいます。私たちはどうにかして森林を保全し、手入れを加えて、水を森の中に溜める方法を考えなくてはなりません。土砂災害は、みんなが協力し合えば被害を少なくできると思います。本当におそろしい災害ですが、私たちが防災意識を高め、落ち着いて行動したり、準備や避難訓練などの練習をしたりして、過去の経験を忘れないようにできれば、被害は軽くなります。激甚災害に指定されるほどの災害が、日本のあちこちで起こっている今、いっそうの土砂災害への備えをしておくべきであると強く感じました。